

## 余熱利用計画について（各町への提案結果）

- ▶ ワーキンググループにおける検討結果を整理し、各町に提案した結果を踏まえ、余熱利用や周辺整備案等について検討します。

### ＜ワーキンググループにおける検討結果の概要＞

#### ○余熱利用案

- ・従業員用の風呂、給湯、管理棟の冷暖房等
- ・施設進入路（坂）のロードヒーティング（冬季の凍結防止用）
- ・温水プール、足湯、サウナ
- ・温室植物園、栽培温室

#### ○施設及び周辺の整備案

- ・交流施設（サイクルステーション、ドッグラン、芝生広場、温水プール、足湯、サウナ、温室植物園）
- ・環境学習施設（見学可能な学習施設）
- ・景観に配慮した施設（法面に四季の植物、建物の色に配慮）
- ・大池周辺に散策路を整備する。
- ・平和の森はできるだけ残す。

#### ○課題

- ・限られた敷地の中でどこまで整備可能か。
- ・整備後の付帯施設の運営管理をどうするか。

- ◇ 想定されるエネルギー量 17,437 (MJ/h)
- ◇ 実際に利用できる最大熱量 6,000 (MJ/h)
- ◇ 実際に安定して利用できる熱量 2,000 (MJ/h)

### ■余熱利用形態と必要熱量

設備名称	設備概要（例）	利用形態	必要熱量 (MJ/h)
管理棟給湯	1日8時間 給湯量 10 m <sup>3</sup> /8h	蒸気、温水	290
管理棟暖房	延床面積 1,200 m <sup>2</sup>	蒸気、温水	800
管理棟冷房	延床面積 1,200 m <sup>2</sup>	吸収式冷凍機	1,000
道路その他融雪	延床面積 1,000 m <sup>2</sup>	蒸気、温水	1,300
温水プール	25m	蒸気、温水	2,100
動植物用温室	延床面積 800 m <sup>2</sup>	蒸気、温水	670
足湯	—	蒸気、温水	710

## 1. 各町への提案結果

### (1) 余熱利用案

安定利用できる熱量（2,000 MJ/h）の範囲でできることとして、

- 管理棟の給湯（290 MJ/h）
- 管理棟の暖房（800 MJ/h）
- 足湯（710 MJ/h）

に利用することを案とする。

※ロードヒーティング、白煙防止装置については必要性を要検討。

### (2) 施設及び周辺の整備案

- 交流施設として、敷地内に芝生広場（東屋・トイレ）、サイクルステーション、足湯を整備する。
- 見学可能な環境学習施設を設ける。
- 景観に配慮した施設にする。
- 大池周辺の町道（上大池東～下大池南）を拡幅整備する。
- 平和の森はできるだけ残す。

### (3) その他

- 基本的な考え方として、整備の範囲は、敷地内に限るものとする。  
（大池周辺の町道拡幅を除く）